

第二十三回フォト旬会優秀作品(24年10月15日)

<自由題>



出番待つこのひとときの
緊張感 池田 隆

寸評：お揃いの法被を着て出番を待つ雰囲気が出ています。なによりも色彩感の溢れた画面が綺麗。

身を尽くし待ちくたびれて
岩になる 上山 裕次
寸評：不動のコモド大トカゲがいるものと思ったら、実は木の根の彫刻でした。すっかり騙されました。



誰も来んワシも古くて
嫁も来ん 矢澤 正二
寸評：なんの変哲もない古い建物に注目した作者のセンス。とぼけた句がまたいい。

他人事に思えぬハエの
断末魔 三春
寸評：食虫植物に捕らえられた
蠅の苦しみを、自分の境遇に置き換えた、深み？のある作品。



<句 付 け>

9月の御題写真



瓜実がもてるカボチャに妬く日かな	池田 隆
撫でてよしはち切れそうな腰の線	中村 晃也
肥満体中身は空でやせ我慢	平尾 富男
君ならばカボチャに目鼻地で行ける	三春

<寸 評>今月の写真は上山さん出題の、ハロウweenに関するものでした。

どうしてもカボチャを主題におきたくなりますが、句は出来るだけ離れたほうがよいと思います。

池田さん：最近瓜実顔は余りもてませんが、この日ばかりはカボチャに叶わないと嫉妬する、丸顔の作者の気持ちが痛いほどわかります。

中村さん：可愛いとはお世辞にもいえない顔は無視して、腰の線に着目した作者の男性らしい着眼点。

平尾さん：作者ご自身のことを詠んでいるものと理解しました。

下の句の「やせ我慢」とは何を意味しているのか判然としませんが、いつもイジメに合っている心情が思わず吐露されたものと解釈します。

三春さん：こんな彼氏と付き合っている作者がお気の毒に思えてきました。

今月は編集者の旅行のため成績発表がおくれました。お詫び申し上げます。